

実地視察大学の概要

○課程認定を受けている学科等の概要

大学名	梅光学院大学（学部・学科等の課程）			設置者名	学校法人 梅光学院				
学部・学科等の名称等				認定を受けている免許状の種類・認定年度		免許状取得状況・就職状況（令和3年度）			
学部	学科等	設置年度	入学定員	免許状の種類	認定年度	卒業者数	免許状取得者数		教員就職者数
							実数	個別	
子ども学部	子ども未来	平成16年度	100人	幼一種免	令和元年度	94人	81人	39人	53人
				小一種免	令和元年度			49人	
文学部	人文	平成27	210人	中一種免(国語)	令和元年度	186人	6人	6人	8人
				高一種免(国語)	令和元年度			6人	
				高一種免(書道)	令和元年度			4人	
				中一種免(英語)	令和元年度			6人	
				高一種免(英語)	令和元年度			6人	
入学定員合計			310人	合計		280人	93人	116人	61人
備考	<ul style="list-style-type: none"> ・「学部・学科等の名称等」欄は、令和4年4月1日現在の名称・定員である。 ・「免許状取得者数」欄の「実数」欄は各学科等の実人数、「個別」欄は各学科等内の教職課程ごとの人数である。 								

教職課程認定大学の实地視察に対する講評

実地視察日：令和5年1月23日（月）

実地視察大学：梅光学院大学

【全般的事項】

○教員養成に関する教育課程、教員組織等について全般的に基準は満たしているものの、改善が求められる点がいくつかあった。今後、必要な措置を講じ、教員養成の水準の維持・向上に努めていただきたい。

【個別事項】

1. 教職課程の実施・指導体制（全学組織等）

○大学としての教員養成に対する理念・構想がはっきりと示されていないので明確化すること。また、その理念を具体化・具現化するために、教職課程に対する全学的な組織、教育課程や教員組織が充実したものとなるよう一層努めること。

2. 教育課程、履修方法及びシラバスの状況、教員組織

○貴学が2024年度に予定しているカリキュラムの見直しについて、学生のニーズを踏まえつつも、大学としてのカリキュラム・ポリシーやディプロマ・ポリシーに沿ったものとなるよう検討すること。

○シラバスについて、コアカリキュラムの各目標に対応しているようであるが、そのことが明確となるよう、記載内容や記載方法を見直すこと。

○大学教員の研究と学生への指導は両輪の関係であるため、大学教員が研究に従事できるよう学内の整備について引き続き検討すること。

○新たに大学教員を採用する際は、当該教員の研究業績が、その授業科目を担当することに適切かどうか学内で判断した上で行うこと。

○教員のFDについては、オンライン授業の方法等について各教員が発表し、意見交換しているということが確認できたが、中教審の動きや教育の最新の情報等について定期的に学内で共有できるよう、FDの内容の充実を図ること。

3. 教育実習の取組状況

○教育実習について、近隣県を中心に大学教員が実習園（校）に訪問指導していることが確認できた。学生に対して一層のきめ細やかな指導や実習のサポートができるよう検討すること。

4. 学生への教職指導の取組状況及び体制

○チューター制度及び履修カルテの電子化により、網目の細かい履修指導を行っていることが確認できた。

○卒業後の学生のフォローや追跡調査等について今後検討していただきたい。

5. 教育委員会等の関係機関との連携・協働状況（学校現場体験・学校支援ボランティア活動等の取組状況）

○教育委員会とは、教育実習をはじめ、学校インターンシップ等を通じ、積極的な交流が行われていることが確認できた。

6. 施設・設備（図書を含む。）の状況

○小学校の教科に関する専門的事項に係る図書が非常に少ないため、充実を検討していただきたい。その際、教職課程の観点から質的充実も図ること。

○クロスライトでは構造上活発なアクティブ・ラーニングが期待できるが、学生が教師になった際もアクティブ・ラーニングを取り入れた授業ができるように、施設の一層の有効活用を検討すること。またアクティブ・ラーニングにとどまらずクロスライトの特性を最大限生かした授業方法についても併せて検討することが望ましい。

7. その他特記事項

○2024年度からの新カリキュラムに向けて、現行の問題点や課題点を洗い出すだけでなく中教審等教育に関する動向を把握し、学校現場で求められている教員を養成できるよう学内で十分に検討し、常に改善を図っていただきたい。